

WOWOW プラス 番組審議会議事録 (2021年1月21日開催分)

開催年月日： 2021年1月21日(木) 11:00~13:00

開催場所： オンライン開催

委員の出席： 番組審議員 6名 (レポート審議含む) 欠席 1名  
株式会社 WOWOW プラス 5名

出席者

[審議員] 青木真弥、音好宏、高寺成紀、富澤一誠、村上典史子、  
湯浅正敏 (以上 50音順、敬称略)

(欠席 池ノ辺 直子)

[放送事業者] 郡司誠致、宮澤辰之、松田健吾、青木昭、伊藤里沙(記)

議題： (1) 2020年10月~12月のWOWOW プラス (旧シネフィル WOWOW) に対する視聴者からの問い合わせや指摘・意見について  
(2) WOWOW プラス (旧シネフィル WOWOW) の番組内容、編成内容に関する審議

報告事項： 2020年10月~12月におけるWOWOW プラス (旧シネフィル WOWOW) に対する視聴者からの問い合わせや指摘・意見について、当社編成制作局長より、その件数や代表的な内容といった概要説明を行った。

審議事項： [審議番組] WOWOW オリジナルドラマ 有村架純の撮休  
第1話「ただいまの後に」

<番組概要>

WOWOW プラスも製作に参加したWOWOW オリジナルドラマ。

多忙な毎日を送る国民的女優・有村架純。そんな彼女はドラマや映画の撮影期間に突然訪れた休日、通称“撮休”をどう過ごすだろうか？知られざる有村のオフの姿を映画、テレビ、CM、舞台など各界のクリエイターたちが妄想を膨らませて描き、有村本人が演じるというこれまでにない一話完結のオムニバスドラマ！

クリエイターたちが描き出す有村の撮休は、ある時は実家の母と過ごしたり、ある時は人間ドックへ行ったり、ある時は開かない瓶のふたに悪戦苦闘したり…。パラレルな物語として展開。果たしてそこにはどんな有村の休日の姿があるのか？

そんな“8人の有村”のドラマをトップバッターで監督するのは、世界を舞台に活躍するWOWOW 初参加の是枝裕和。有村とタッグを組むのは本作が初となり、第1話は拡大版でお送りする。

審 議 内 容 : ■審議員意見

- ・国民的女優の「撮休」をドキュメンタリーでもインタビューでもなくドラマとして描くという試みは企画としては面白いが、実際に制作する上では困難だったのではないかと。第1話に関しては、有村架純氏のオフの姿に際立った意外性はなく、企画の面白味があまり感じられなかった。
- ・「撮休」というタイトルからは有村氏のプライベートな一面が観られるのではないかと連想するが、実際はフェイクドキュメンタリーであるので、企画趣旨が最初に分かっていないとフィクションなのかノンフィクションなのか分かり辛い。
- ・フェイクドキュメンタリー仕立てのドラマは初めての企画ではないが、主演の有村氏があまりバラエティ番組などに出演しないので新鮮な印象だった。1話30分で気楽に楽しめるが、WOWOWや他媒体でも放送があるなら、WOWOWプラスで放送するならではの独自性があるのも良かったのではないかと。
- ・是枝裕和監督による淡々とした筆致や、細かい部分までしっかり観ないと気付かないような仕掛けは、小津安二郎監督の映画やヨーロッパ映画にも近い印象があり、地上波ドラマとは違ったチャレンジングなドラマになったと思う。
- ・是枝監督の何気ない日常を淡々と描く作風は映画ファンにも浸透していると思うが、本作では監督の現代的・社会的なメッセージ性はあまり感じられず、起承転結の「結」が弱い印象だった。
- ・是枝監督による細やかな演出と優れた脚本により、さりげない会話の中に様々な関係性が垣間見える面白さがあり、非常に上質なドラマに仕上がっていた。次の監督と脚本家ではどのようなドラマが生まれるのか、さらに次の主演役者の可能性にも期待感が持てる内容だったので、今後も続けて欲しい。

---

連 絡 事 項 : 次回番組審議会は、2021年4月15日(木)11:00開催予定。

審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置およびその年月日

特になし

その他の参考事項

特になし

以上のことを明らかにするために本議事録を作成し、出席議員は次に記名・捺印する。

2021年2月18日

委員 青木 眞弥                      委員 音 好宏

委員 高寺 成紀                      委員 富澤 一誠

委員 村上 典史子                      委員 湯淺 正敏

以上